

第3章 霧島市のスポーツ振興の現状と課題

1 市民のスポーツ活動について

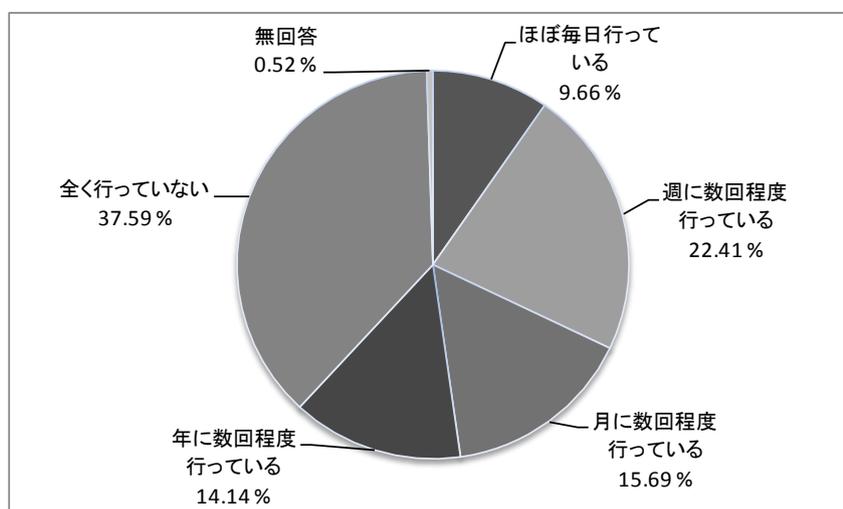
市民のスポーツ活動や体力づくりへの関心が高まり、朝夕にウォーキングをしたり、早朝からゲートボールやグラウンドゴルフなどそれぞれの志向にあった種目のスポーツを楽しむ人が増えています。

スポーツを通じて健康で豊かな生活を送るためには、市民一人ひとりがスポーツ活動の必要性を認識し、健康な日常生活を営むことができるよう、暮らしにスポーツのあるまちづくりを進めていく必要があります。

●運動習慣の高まり

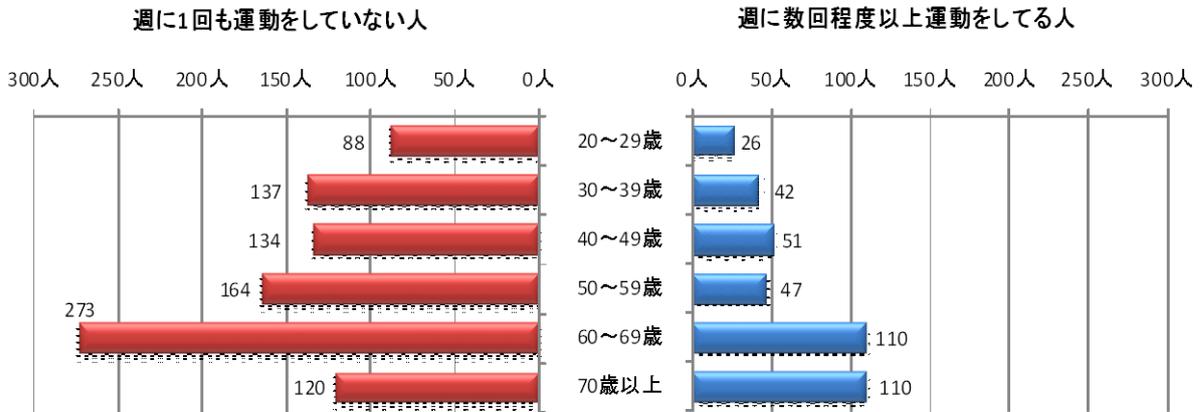
生涯スポーツ志向の高まりはもとより、体育施設・公園利用及び保健事業の推進などにより、定期的（週に数回程度以上）にスポーツを行っている人の割合は、市民意識調査では、ここ数年 30%を超える水準にあります。（平成 23 年度 31.0%、平成 24 年度 32.0%）

○ スポーツの実施状況



（資料：市民意識調査 平成 24 年 6 月）

○意識的に運動をしている人の状況

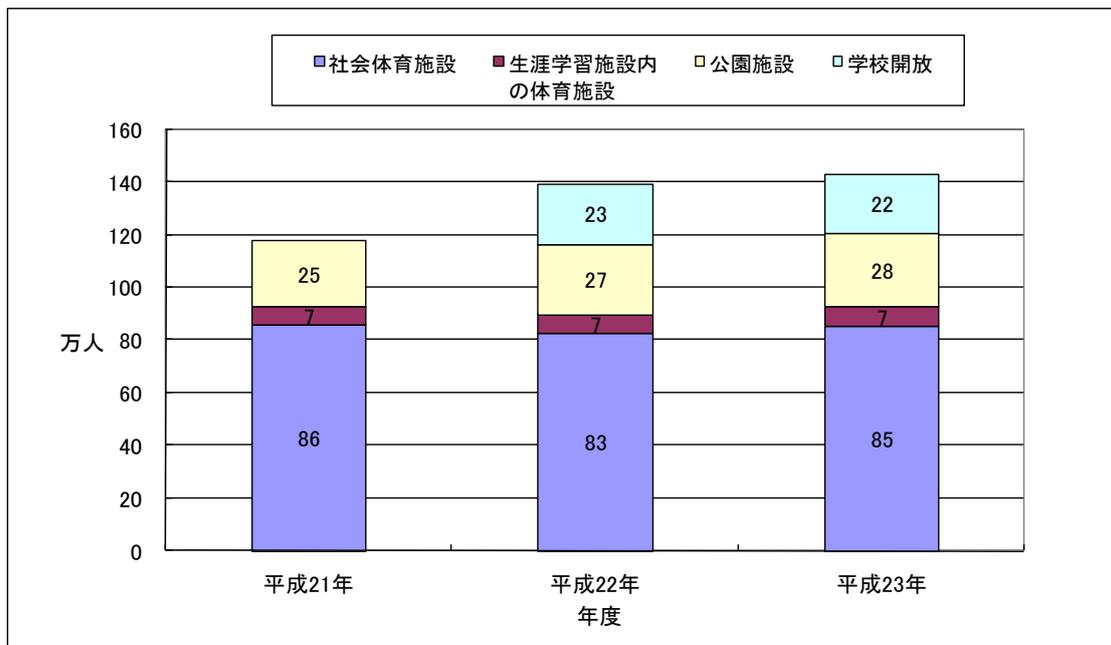


(資料:市民意識調査 平成24年6月)

※市内に住民登録されている20歳以上の方から、無作為に3,000人を抽出し、郵送で調査票の配布・回収を行い、1,160件から得た回答数からグラフ化したものです。

また、施設利用者の実績として社会体育や生涯学習施設の利用者及び学校施設開放事業^{*}の利用者についてもここ数年増加傾向にあります。

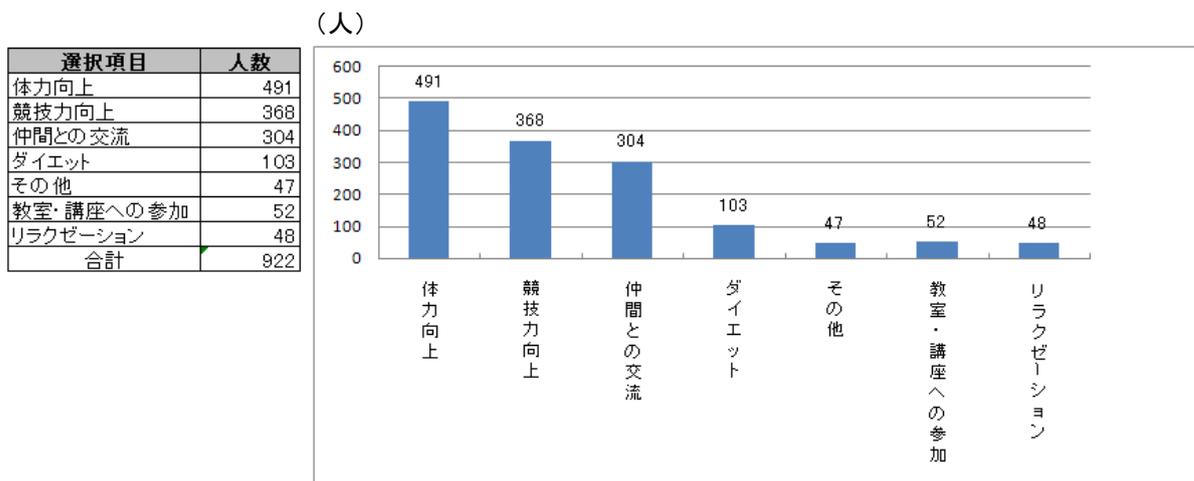
○施設利用者の推移



(資料:保健体育課 調べ)

さらに、施設利用目的の調査結果では、体力向上、競技力向上、仲間との交流の順になっています。

○施設利用の目的



(資料:平成 23 年 社会体育施設利用者アンケート調査)

市民の一人ひとりがスポーツ、体力づくりに関心を持ち、気軽に参加できるようなきっかけづくりや情報提供などの意識の啓発やスポーツ環境の整備についてその必要性が浮かび上がっています。また、こうしたスポーツへの参加意向は、年代によってスポーツに対して期待するものが異なると思われ、子どもや高齢者など年齢層、ライフステージに応じたスポーツ環境づくりが必要です。

●地域コミュニティにおける生涯スポーツ活動について

各自治組織は、地域コミュニティの基礎的な組織であり、地域の連帯と親睦、良好な地域環境の形成のためにも大変重要な役割を果たしています。このような地域コミュニティにおいては、地域住民相互の連帯と協調を図る目的で、生涯スポーツをはじめとする様々な事業が実施されています。これらは、市民に身近なコミュニティレベルでのスポーツ活動を通して、豊かな人間関係の構築を図ることを目的に取り組まれているものであり、市はそのような活動に助成金を支出して活動を支援しているところです。

また、住民一人ひとりが、それぞれの体力、年齢や目的に応じて、スポーツやレクリエーションを楽しむという健康づくりの視点からの取り組みでもあります。具体的に実施されている事業としては、次のようなものがあります。

- 地域のスポーツ大会（ソフトボール、バレーボール、ゲートボール、グラウンドゴルフ、ミニバレー、卓球）
- 地域の運動会
- 公民館を使用するの軽運動や健康体操等
- ウォーキング教室、駅伝大会等

市民のスポーツ活動は、子どもから高齢者、障がい者など対象が幅広く、その大部分がそれぞれの地域の中で行われています。運営については地域住民等が主体的に行うことが第一となります。そのために、実行委員会等の運営面における担い手育成や楽しく持続可能な活動としての実践が求められています。

また、障害の程度、体力に合った身近で親しみやすいレクリエーション活動、障がい者スポーツの充実・環境づくりを進めていくことが必要となっています。



●市民スポーツ活動の指導者育成について

市民が、身近で気軽に参加できるスポーツ事業として、地域の実行委員会等が主催する地域スポーツ事業があり、その企画・運営は、スポーツ推進委員※、自治組織の役員等のボランティアによって行われています。

教育委員会は90名を超えるスポーツ推進委員を委嘱しており、市民スポーツ活動の支援を担うスポーツボランティアとして、ニュースポーツ※の紹介やスポーツ大会等を支えています。市民の多様化するニーズへの対応や、効果的な指導が行われるためには、スポーツについての知識や指導技術、実技技能を持ったスポーツ指導者の養成・確保が必要で適任者の選考や資質の向上が必要となっています。

今後、市民ニーズの拡大やスポーツ環境の変化に対応した新しい視点でのスポーツ指導者の育成が課題となってきます。

また、スポーツを支えるという観点から、スポーツボランティア募集、その派遣などの体制が十分でなかったり、イベント運営上の位置づけが明確でなかったり、ボランティアに関する情報提供が不十分な状況もみられます。ボランティア活動に取り組みたいとする市民やスポーツ支援を希望する人たちの情報管理・提供の仕組みづくりが必要となります。

○ 出前講座『ニュースポーツの紹介』年間実績

	出前回数(回)	受講者数(人)
平成23年度	54	2,384
平成22年度	61	2,595
平成21年度	40	1,454

※スポーツ推進委員（旧体育指導委員）や職員が、小学校の学級レクリエーション、家庭教育学級、地区子ども会、スポーツ少年団等へニュースポーツ体験活動を実施することにより、親子のふれあい、地域コミュニティの創造、スポーツへの興味・関心の高揚等、健康づくり・生涯スポーツの普及振興を図ることを目的に実施しているものです。



●学校体育施設開放事業について

学校体育施設開放事業*（「学校開放事業」）は、学校施設使用条例に基づくもので、市民の積極的な利用があり、利用者も年々増加しているところです。市内の学校開放事業は、49校中38校が実施しており、登録団体数が202団体に上ります。そのうちスポーツ少年団登録が80団体です。

近隣住民とのトラブルについては、最近では報告されておりませんが、過去の事例では、野球ボールが敷地内に飛んできたなどの報告があります。今後、今以上に普及が進んだり新しいスポーツが流行したりしてきたときには、新しい課題も出てくるのではないかと考えられます。

この事業実施の前提は、学校体育施設をあくまでも学校教育に支障のない範囲内で使用するというもので、学校で使用している一部の備品・道具を借用させてもらうこととなります。今後、ますます利用促進が図られると学校開放事業で使用するにより、学校備品等の故障や劣化が進むものと考えられ、スポーツ振興という観点からどのようにしていくべきか検討する必要があります。

●各種スポーツ団体の活動について

（霧島市体育協会）

霧島市体育協会（「体育協会」）は、29競技団体、11,467名（平成24年5月現在）で構成されています。その経緯は、市町村合併後、各スポーツ団体の組織化を協議し、平成18年6月に新市に相応しい組織と財政上の強化充実のため、一本化を図りました。これまでの活動を引き継ぎながら、競技団体を中心としたスポーツ振興事業の充実に取り組んでいるところです。

課題としては、財源に占める霧島市からの補助金の比率が高く、自助努力による財政改善が求められるところです。そのため、賛助会費の増加や市の体育施設の管理運営を行うなど、収益事業の強化等自主財源の確保や発想の転換が望まれます。



(霧島市スポーツ少年団)

スポーツ少年団は、平成 17 年の霧島市誕生とともに本部が組織され、スポーツを通じた青少年の健全育成を目的に、指導者・育成母集団の役割と活動に関する事業を実施しています。平成 24 年度実績で、登録団数が 80 団、団員数 1,472 名（男子 973 名、女子 499 名）指導者 317 名です。また、その中には、中学男子 61 名、女子 39 名、高校男子 3 名、女子 1 名が含まれています。

現在、少年期のスポーツ活動の場として、1,368 名の団員が活動していますが、その入団率は、ここ数年 20%を下回っています。また、最近の傾向として登録しないで活動している団体が散見されます。今後は、総合型クラブ*や、体育協会との連携も含めて子どもの健全育成という観点からのスポーツ少年団の果たす役割を積極的に啓発する必要があります。

霧島市の総児童数とスポーツ少年団数及び割合

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
総児童数(人)	8,126	8,053	7,821	7,725	7,639
入団児童数(人)	1,804	1,845	1,686	1,466	1,368
割合(%)	22.20	22.91	21.56	18.98	17.91

(資料:霧島市スポーツ少年団)



(総合型地域スポーツクラブ)

霧島市では法人化した2つの総合型クラブ*が活動を行っており、その事業として、ニュースポーツ*事業、健康づくり事業、スポーツ大会、会員交流事業、文化活動事業等が実施されています。その活動の運営資金は会員からの会費や事業収入、施設の管理運営費、助成金等があります。しかし、会費以外の安定的な収入が少なく運営に対する不安もあります。

総合型クラブ*には、「新しい公共*」の担い手としての役割が期待されます。組織としての自立が求められる一方で市や体育協会、地元の競技団体等との密接な連携・協力が欠かせません。

一方、地域全体をみると、総合型クラブが身近にある地域とそうでない地域があります。今後、広域的な視点に立って各種スポーツ・体力増進事業等に参加できる環境をつくる必要があると考えられます。

市民のスポーツ活動を支える新しい公共*の担い手として、各種スポーツ団体の安定的な運営は必要であり、同時に自助努力は必須条件です。そのため市からの支援は継続していく必要があります。

そのうえで、スポーツ環境を充実させるため各スポーツ団体が、教室・練習・大会等のプログラムの提供や、選手の育成・強化のための指導者の養成を行う必要があります。また、市民が気軽にスポーツ参加ができるように、様々な媒体を通してスポーツに関する情報を提供する仕組みを整える必要があります。



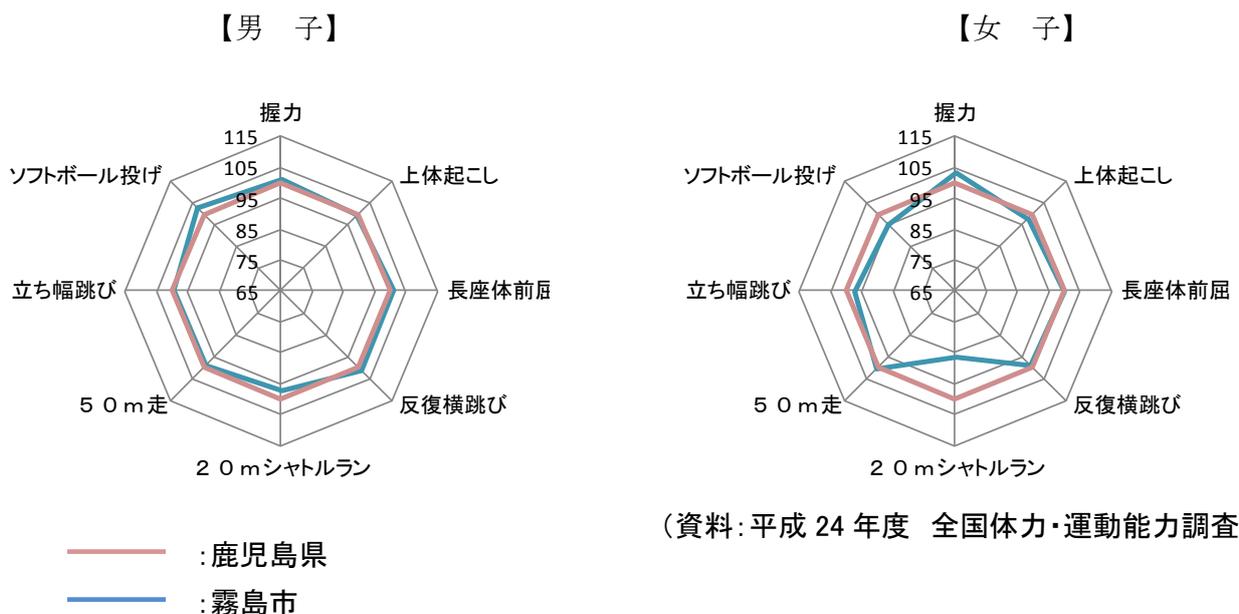
2 子どもを取り巻くスポーツ環境について

●子どもの体力・運動能力について

本市における体力テスト※の結果をみると、小学5年生では、男女の握力、男子の長座体前屈、反復横跳び、ソフトボール投げ、女子の50m走が、また、中学2年生では、男女の握力・反復横跳び、女子の立ち幅飛び・ハンドボール投げが、鹿児島県平均を上回る結果となっています。

一方、市内の子どもたちの成長過程をみると、男女共に握力、反復横跳び、20mシャトルラン立ち幅跳びの数値が改善しています。さらに女子は上体起こし、ハンドボール投げが良くなっています。これは成長に伴って運動活動を通じての基礎体力の向上が要因として考えられます。

小学5年生の体力テスト結果(鹿児島県を100とした数値)



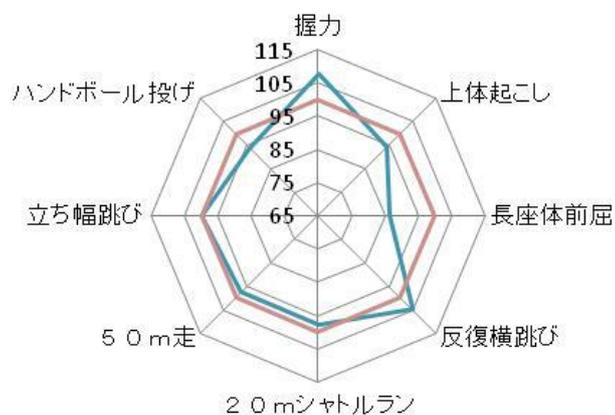
(資料:平成24年度 全国体力・運動能力調査※)

●体力テストの項目と体力との関係

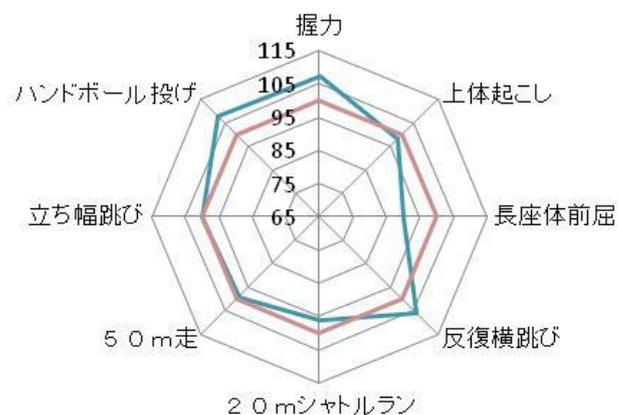
テスト項目	体力
握力	筋力
上体起こし	筋力・筋持久力
長座体前屈	柔軟性
反復横跳び	敏しょう性
20mシャトルラン	全身持久力
50m走	スピード
立ち幅跳び	瞬発力
ソフトボール投げ	巧ち性・瞬発力

中学2年生の体カテスト結果(鹿児島県を100とした数値)

【男子】



【女子】



— :鹿児島県
— :霧島市

(資料:平成24年度 全国体力・運動能力調査※)



●中学校の運動部活動について

鹿児島県の中学生で運動部活動を行っている割合は66%ですが、霧島市においては63%と県平均をやや下回っています。

また、生徒数の減少などにより部員数が年々減少し、競技種目によってチーム編成ができないなどの状況があるほか、指導者(顧問教員)不足、実技指導力不足のため、部活動が成り立たないなどの課題もあります。

そのため、本市としては部活動指導者の確保をめざし、学校外からの指導者の派遣を推進していく必要があります。

●学校と地域における子どものスポーツ機会の充実について

学校と地域社会が連携して地域スポーツの環境づくりを推進することにより、子どもたちの学校内外のスポーツ活動を充実することが可能となります。

学校では、家庭や地域と共に子どもたちを育てていくという視点に立ち、学校施設開放事業^{*}の推進などが図られています。これからの子どもたちのスポーツ活動についても、学校・家庭・地域社会がそれぞれの機能を発揮できるように、例えば、総合型クラブ^{*}、スポーツ少年団、体育協会など一層の連携を通じて、地域の人材も活用しながら、子どもたちが学校で様々な指導を受けることができる環境を、充実していく必要があります。

3 スポーツ施設について

●施設の老朽化への対応

各施設については、安全にスポーツができるよう適切な維持管理を行っていますが、建設後 20 年を超えた施設が全体の半数以上を占めています。今後の施設整備にあたっては、利用者の安心・安全、緊急度等を十分勘案する中で、計画的に整備を進めていく必要があります。



●市民ニーズを満たす施設の充実

施設の規模や機能、トイレや更衣室などの付帯設備が今日の市民ニーズに合致していないものがあります。今後の施設整備にあたっては、現在の市民ニーズに応えられるよう進めていく必要があります。

●効率的な指定管理者による管理運営

スポーツ施設の多くは、指定管理者制度^{*}を導入しており、効率的な管理運営により、市民サービスの向上と市の経費削減が図られています。一方で、指定管理者^{*}が提供するサービスが均一でないとの指摘もあります。施設利用者の立場に立った施設の管理運営が実現するよう、指定管理者^{*}の管理監督を行う必要があります。

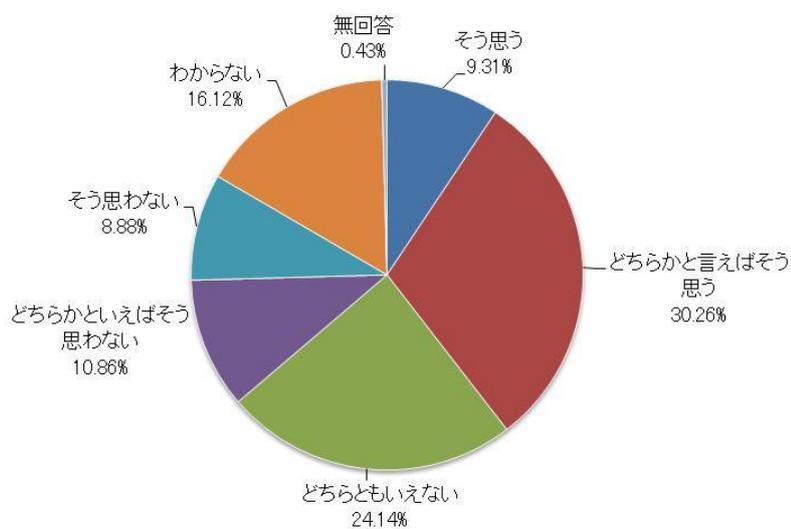
●スポーツ施設の適正な配置と維持管理

霧島市は多くのスポーツ施設を管理運営しています。施設の老朽化やそれぞれの施設が持つ課題はあるものの、スポーツに関する市民意識調査の結果等を総合的に判断する中では、本市のスポーツ施設は、現在のところある程度整備されていると言えます。

しかしながら、体力増進はもとより、市民が主体的にスポーツに取り組める環境を創り、スポーツを通じた地域コミュニティを形成する上では、今後ともスポーツ施設の充実が必要です。適切な維持管理を図る中で、施設の長寿命化を図るとともに、特に既存施設の改修については、その必要性和緊急性を十分に検討しなければなりません。

また、施設を新しく整備する場合においては、費用対効果の検証と既存施設との配置バランスや整理統合についても検討する必要があります。

○ 運動・スポーツを行いやすい環境が整っているか



(資料:市民意識調査 平成24年6月)

4 自然体験型スポーツについて

本市は、北は霧島山系、南は錦江湾、それを結ぶ天降川が流れ、自然豊かな立地にあります。その環境を活かしたスポーツやレジャーを楽しむ条件として恵まれており、自然体験型の施設が点在します。

市民にとって、身近な自然環境とふれ合いながらスポーツに親しむことで、心身のリフレッシュが図られ、その効果からより自然に親しむ運動・スポーツの展開へと行動変容を促すことも期待されます。近年は、遊歩道や河川敷を利用して、ジョギングやウォーキング等で体力づくりや健康づくりをする市民が見受けられます。

しかし、自然を利用したスポーツへの取り組みは、これまで十分ではなく自然体験型のプログラムの開発や、ガイドをはじめとした指導者や支援者の育成が必要です。

自然を舞台として、「登る」「周る」「漕ぐ」「泳ぐ」等、多種多様なスポーツ活動を生み出します。それらのスポーツ環境を活用してスポーツを推進し、市民がスポーツに親しみ、楽しむことで、ライフステージに応じたスポーツ活動がさらに充実するとともに、交流も促進されます。そのことは、他の都市にない本市独自の「スポーツ文化」を確立することにもなると考えられます。また、本市から全国へ霧島を舞台としたスポーツを発信することにより、地域間交流の拡大による、地域の活性化も期待できます。

今後、こうしたスポーツ資源の情報を集約し、スポーツ・レクリエーションの普及促進を図る必要があります。

